多機能型携帯電話を利用した英語学習に関する一考察

札幌国際大学　現代文化学科　川名典人

e-mail: kawana@ed.siu.ac.jp

〇はじめに

2008 年度 3 月末の携帯電話と PHP の人口普及率がは 84.0%である。(1) 特に高校生や大学生の利用率は非常に高い。その理由は１）どこでも電話で連絡がとれる　２）メールの送受信が非常に簡単である　３）多様な機能が "装備" されている ４）利用方法が非常にシンプルである　５）定額制を利用すればインターネット閲覧も負担が少ない等である。実際、大学でも圧倒的にコンピュータよりも携帯電話を利用がしている学生の方が多い。一方、語学教育者にとっても携帯電話は非常に魅力的なツールである。理由としては１）いつでも学習者とコミュニケーションが取れる　２）写真や動画データも携帯電話で集めることができる　３）メール機能やインターネット上のブログを利用して学習情報を収集できることが考えられる。更に語学の学習で非常に大切な要素である”動機づけ”という点でも携帯電話は非常に優れている。

上記のような携帯電話の特性を利用して発表者は 2008 年１月中旬に２泊３日の「英語ワークショップ II」という英語のフィールドワークを北海道倶知安市にあるグランドヒラフスキー場で実施した。この報告書では携帯電話がスキー場のような都会から離れた場所でどのような利用法が可能か、そして利用した時の学習効果は高いのかを考察した。

1. 環境

１）学習環境

このプロジェクト対象科目は「英語ワークショップ II」という現代文化学科の２泊３日英語漬け集中講座である。参加学生は 14 名、教員 4 名（日本人教員 1 名)、アシスタント教員 2 名（日本人教員 1 名）である。アシスタント教員の役割は学生のインタビューサポートと携帯電話の使用法に関するサポートだけでなく、事後学習でのアンケート整理、報告書作成、そしてディスカッションにおけるサポートも行った。フィールドワークを行った倶知安に関する環境も事前学習で十分説明した。これはアンケートやインタビューの時に非常に役立った。アンケートの内容は学生に作成させた。また取材法のセミナーも行った。担当教員は、事前に取材場所を確認し、状況を把握した。更に現地での学生ケアの方法も確認した。取材で必要となる microSD カード付き携帯電話に関しては、参加学生全員に渡した。そのため取材前日にテレビ電話の使い方、microSD カードを利用した携帯電話による写真と動画の取り込み方法のワークショップも行った。

倶知安のグランドヒラフを選択した理由は近年１週間から２週間滞在する長期滞在型の外国人観光客が多いためである。特に倶知安町に宿泊する外国人は 12 月から３月の 4 ヶ月間だけで全体の 89%に達している。(2) 今回のアンケート調査でも 200 人以上の外国人にインタビューができた。そのほとんどはオーストラリア人であった。

What country do you come from?

	Number of Respondents	Percent
Australia	195	86.28%
New Zealand	9	3.98%
U.K.	6	2.65%
U.S.A.	4	1.77%
Taiwan	0	0.00%
China	0	0.00%
Europe	2	0.88%
Other	10	4.42%

図１　アンケートでの国別外国人観光客

２）携帯電話等の機材・通信環境

今回のプロジェクトで使用した携帯電話は NTT ドコモの FOMAF904i という機種で、テレビ電話ができるタイプのものである。静止画は JPEG 形式で有効画素数 300 万以上、動画は ASF ファイル形式で保存される。テレビ電話の内容は携帯電話では保存できないが、コンピュータに携帯通信カードを挿入し、電話ソフトをインストールすることで QuickTime 形式の録画がコンピュータ上で可能となる。またこの FOMA904i では microSD カードというハードデスクを挿入できるので、大量の映像や写真データを蓄積できる。今回のフィールドワークでは携帯通信カード付きコンピュータをグランドヒラフから離れた倶知安市のホテルに設置した。アンケートを行う場所に関しては、グランドヒラフスキー場の頂上１カ所、麓のカフェテリア２カ所を選択した。どの地点も事前に通信環境を調べたが問題はなかった。

2. 携帯電話を利用したフィールドワーク

学生を３グループに分け、担当教員と一緒に 10 時から 16 時までアンケート調査をおこなった。アンケートの内容は、選択型１０問、そし記述型が１問であった。作業手順は、観光客にアンケートの趣旨を説明し、アンケートに記入してもらう。その後にアンケートに関連したインタビューをする。最後に写真を撮ったり、可能であれば録画をすることである。写真や録画は全て携帯電話を利用した。担当教員は学生と外国人観光客の会話を確認しながら、必要であればサポートをした。また、アンケート調査の合間に倶知安のホテルに設置されている通信カード付きコンピュータとテレビ電話を行った。要約すると、このフィールドワークにおける学生の作業は、１）アンケート調査、２）インタビュー調査、３）現場の録画、４）現場の写真撮影、５）通信カード付きコンピュータへのテレビ電話による報告であった。

図１　インタビュー録画

図２　携帯電話ワークショップ

3. 検証

１）写真、動画のクオリティ

携帯電話の写真は画素数が高いため事後学習で使用するには十分なクオリティであった。また、動画も写真では表現できない音声や臨場感を提供しているので非常に効果があった。ただ、携帯の動画フォーマットは ASF であるため汎用性がない。そのためコンピュータで閲覧するためには動画変換ソフトを利用して mp4 に変換する必要があった。１分程度の mp4 の動画サイズは約３MB であった。一度 mp4 に変換すると、事後学習用としてネットでの確認や、podcasting で iPod 等の映像プレーヤーに保存して繰り返し利用することが可能となった。

２）テレビ電話の可能性

通信カードを利用したコンピュータと携帯電話や携帯電話対携帯電話のテレビ電話の動画クオリティは通信環境にかなり影響を受けることが判明した。事前の調査は秋に行ったが、その時は快晴で風がなく、周囲にはほとんど人がいなかった。一方、今回の調査日の環境は、曇り、時々雪。そして多少風も吹いていた。また、スキー場では１月に気温がかなり下がるため、屋外での携帯電話の使用はこれらの影響を受けた。特に顕著だったのは、１）時々音声と映像が同期しない２）携帯電話を握りながらテレビ電話をすると、相手の話し声が十分に聴き取れない。テレビ電話ではこれらの点は致命的である。音声が聴き取れないという問題はヘッドセットを利用することで解決できるが、音声と映像の非同期は調整が難しいように思われる。携帯電話マニュアルには、極端な高温、低温は避けること（温度 5°から 35°湿度 45%から 85%の範囲）と書かれている。(3) 今後は使用環境に十分注意を払うことが必要と考える。

３）コミュニケーションツールとしての携帯電話

フィールドワークの学習は参加型の取り組みとなるため、それ自体学生のモチベーションは非常に高い。しかし、携帯電話のように情報を発信したり、収集するツールを利用すると、学生は事後学習で内容を確認しながらレポートを作成したり、会話の素材として利用することも可能となる。教員もそのような情報アーカイブを利用した具体的な質問をすることで学生のモチベーションを高めることができる。今回のフィールドワークでは写真 30 枚、動画２本、テレビ電話 2 回を各参加学生に義務づけた。

５）通信コスト

FOMA によるテレビ電話の通信料は、通常のパケット料金と体系が異なる。つまり毎月支払う基本料金の設定で決まる。例えば基本料金が 14,000 円以上となる場合のテレビ電話通信料は約 14 円／３０秒である。しかし、基本料金を最低に設定すると通信料が倍以上となる。今回のフィールドワークでは、1 回のテレビ電話は平均すると１分以内であった。したがって、もし大学のような高等教育機関で事前に使用方法を決めてフィールドワーク等で活用すれば十分通信コストに見合う成果が期待できる。

4. 結論

今回の携帯電話を利用したフィールドワークの取り組みから次のことが明らかになつた。１）十分な準備をして実施しても、通信環境等は当日の現場の状況に依存する。２）動画、静止画、テレビ電話という多様な方法で情報を発信し、且つ収集するというフィールドワークの方法は、通常の現場だけで完結するフィールドワークよりも、情報をアーカイブ化することで繰り返し事後学習ができるという点で教育の質が向上すると考えられる。

【学生のアンケートより抜粋】

○今日、比羅夫で英語で外人にインタビューをするという実習を行って感じたことは、やはり外人とのコミュニケーションはとても楽しいということです。自分はイギリスに２年間住んでいたこともあって、外人とのコミュニケーションには緊張はしなくなったけど、こういう観光客としてきている外人たちが何を思っているのか改めて知ることができて楽しかったです。

○出身地によって、同じ英語でもなまりがあることに、なんとなくではありますが気づくことができました。アンケートをしていく中で、オーストラリア出身の方が多いように感じました。まだ上手く単語をつなげて文章にしていくということは出来ませんが、少しずつ挑戦していきたいと思います。

○今回たくさんの外国人と触れ合えて、自分の英語力の無さとか、幼さとか感じたけど、いろんな人と話せてコミュニケーションがとれ、たくさん初めての経験ができてよかったし、なによりみんな笑顔でやさしく接してくれたので嬉しかった☆

【補注】

（１）総務省報道資料：電気通信サービスの加入契約数等の状況（平成 20 年 5 月 30 日）

（２）梅村匡史・川名典人（2008 年）：多言語によるバーチャルコミュニティ形成に関する基礎的研究 - ニセコ地区をフィールドとした試験的実践にむけて -、北海道地区・観光研究センター年報創刊号　pp.69

（３）NTTDo Co Mo FOMA F904i 取扱説明書'07.6　pp.18

○参考資料

１）ドコモテレビ電話ソフト、通信カード：http://videophonesoft.nttdocomo.co.jp/

２）ニセコフィールドワーク報告：http://www.siu.ac.jp/bunka06/action/niseko08